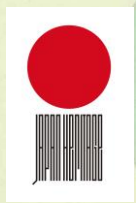
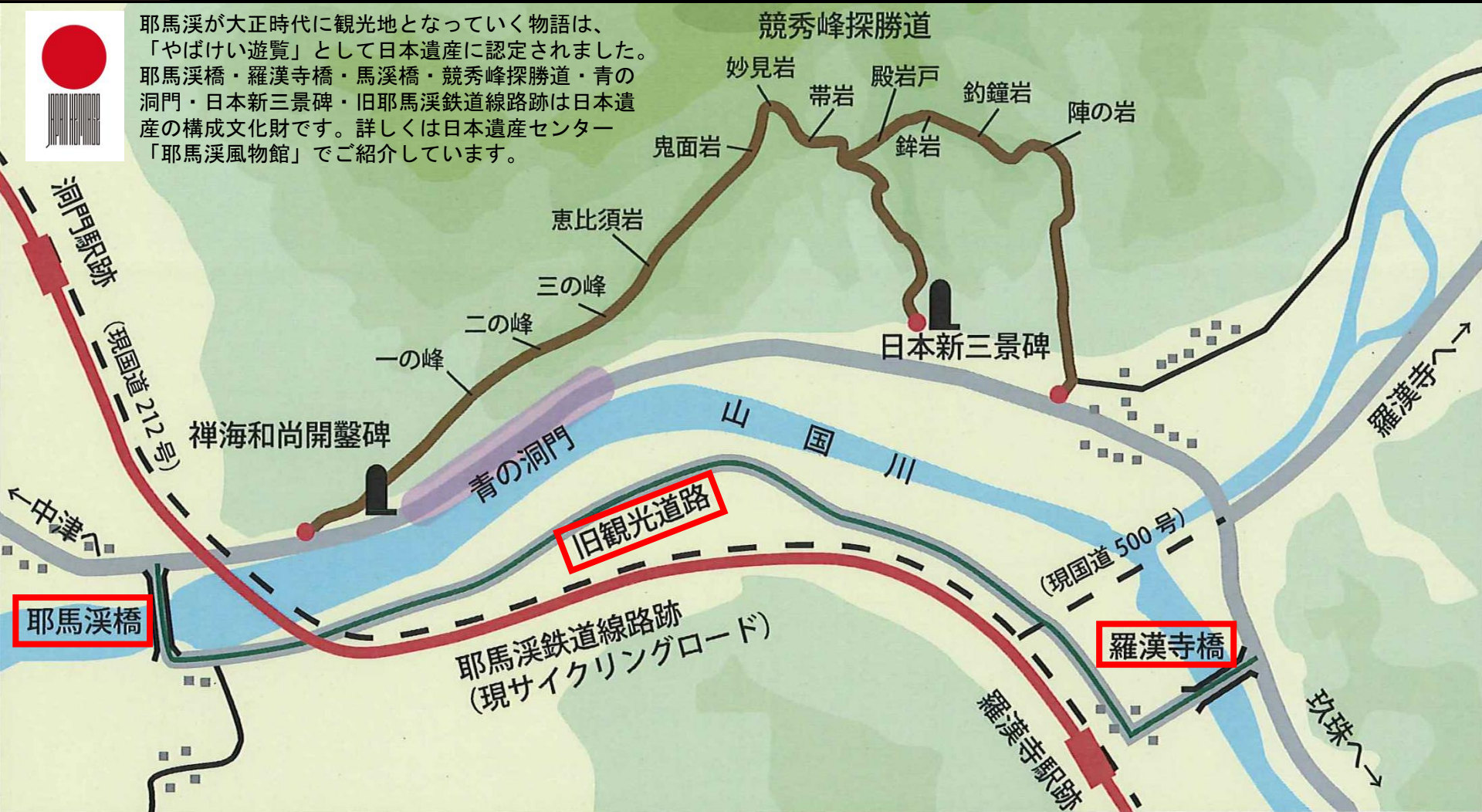


大正時代の観光コースを歩こう



耶馬溪が大正時代に観光地となっていく物語は、「やばけい遊覧」として日本遺産に認定されました。耶馬溪橋・羅漢寺橋・馬溪橋・競秀峰探勝道・青の洞門・日本新三景碑・旧耶馬溪鉄道線路跡は日本遺産の構成文化財です。詳しくは日本遺産センター「耶馬溪風物館」でご紹介しています。



耶馬溪橋を渡って旧観光道路（春にはネモフィラに囲まれます）を歩きながら、福澤諭吉先生が守ってくれた競秀峰（青の洞門）の景観を楽しみましょう。そこから羅漢寺橋へ、そして対岸の青の洞門をくぐって一周するのが大正時代の観光コースです。競秀峰のトレッキングもおすすめです。橋と川を見渡す絶景が待っています。

耶馬溪橋が国の重要文化財に指定決定！

令和4年5月20日、国の文化審議会は、耶馬溪橋を国の重要文化財に指定するよう文部科学大臣に答申しました。



今回指定に際して評価されたポイント

1. 我が国最初期の観光道路施設
2. 日本最長の石橋
3. 度重なる洪水に耐えてきた歴史

耶馬溪橋は、長さ115.7m、幅4.5m、石造の8連アーチ橋で、現存する日本最長の石橋です。
旧東城井村が競秀峰（青の洞門）を山国川の対岸から展望するため
に造った観光道路の一部をなすもので、大正11年に着工、大正12年
3月29日に完成しました。
自動車交通に対応したわが国最初期の観光道路施設であり、近代観
光開発史上価値が高く、度重なる洪水に耐えてきた大正期を代表す
る石橋として貴重です。

令和5年3月、名勝耶馬溪は国指定100年、耶馬溪橋は架橋から100年を迎えます。



県指定 羅漢寺橋（本耶馬溪町）
大正9年10月竣工

【耶馬三橋】

石橋が日本一多い大分県の中でも、
川幅の広い山国川に架かる耶馬三
橋（耶馬溪橋・羅漢寺橋・馬溪
橋）はその長さが特徴です。



県指定 馬溪橋（耶馬溪町）
大正12年10月架橋

【橋の長さ】

全国1位：耶馬溪橋 115.7m
全国3位：羅漢寺橋 89m
全国4位：馬溪橋 82.6m

馬溪橋も
令和5年100歳！



諭吉が守った景観

明治27年、故郷中津に帰った福澤諭吉は、青の洞門の
ある競秀峰一帯の土地が売りに出されていることを知
り、私財をもってその土地を購入し、景観を開発から
守りました。我が国における自然保護・環境保全の先
駆けです。耶馬溪橋はこの景観を楽しむために建設さ
れました。先人が残してくれた景観を、今度は私達が
大切に未来に伝えましょう。